

武力で平和は守れない

これは「生きるための」戦いだ。

アフガニスタンとパキスタンで、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた男、
 医師・中村哲。戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設してきた。
 なぜ医者か井戸を掘り、用水路を建設したのか？
 その答えは、命を見つめ続けた中村の生き様の中にあり、
 私たちはこの映画で中村が生き、その軌跡をたどることになる。



「彼らは殺すために空を飛び、
 我々は生きるために地面を掘る。」 —中村哲

中村の誠実な人柄が信頼され、医療支援が順調に進んでいた2000年。思いもよらぬ事態に直面し、中村の運命は大きく変わる。
 それが“大干ばつ”だ。渇きと飢えて人々は命を落とし、農業は壊滅、医療で人々を支えるのは限界だった。
 その時、中村は誰も想像しなかった決断をする。用水路の建設だ。
 大河クナールから水を引き、乾いた大地を甦らせるというのだ。しかし、医師にそんな大工事などできるのか？
 戦火の中で、無謀とも言われた挑戦が始まった。

「ここには、天の恵みの実感、誰もが共有できる希望、
 そして飾りのないむきだしの生死がある。」 —中村哲

専門家がいないまま始まった前代未聞の大工事は、苦難の連続だった。数々の技術トラブル、アフガン空爆、息子の死…
 中村はそれらの困難を一つ一つ乗り越え、7年の歳月をかけ用水路は完成。
 用水路が運ぶ水で、荒野は広大な緑の大地へと変貌し、いま65万人の命が支えられている。そして—。

2019年12月。さらなる用水路建設に邁進する最中、中村は何者かの凶弾で命を奪われた。
 その報にアフガニスタンは悲しみに沈み、ニューヨークタイムズ、BBCなどが悲報を世界に伝えた。
 あれから2年半。日本ではその生き方が中学や高校の教科書で取り上げられ、
 母校の九州大学はその思索と実践を研究し始めた。
 中村の生き様は静かに語り継がれ、輝きを増しながら人々を励まし続けるだろう。
 そして用水路はこれからもアフガン人の命を支え続けていこう。

戦火のアフガニスタンで21年間継続的に記録した映像から、
 これまでテレビで伝えてきた内容に未公開映像と
 現地最新映像を加え劇場版としてリメイク。
 混沌とする時代のなかで、より輝きを増す
 中村哲の生きざまを追ったドキュメンタリー！



اوره به دي خاوره
 له كرونده كي
 بني او مجبته
 خه نه كرو



劇場版 『荒野に希望の灯をともし』 長岡上映会

日時 3月25日(土) 10時30分～(作品時間90分) 会場アオーレ長岡市民交流ホールA
 入場料 前売1200円 当日 1500円 障害者手帳、療育手帳をお持ちの方、高校生以下(学生証持参)500円
 プレイガイド アオーレ長岡ながおか市民協働センター/文信堂書店/ら・なぶう/西時計
 眼鏡店/キャラメルママ/(長岡市)みずすまし(三条市)シネ・ウインド(新潟市)他
 主催 長岡アジア映画祭実行委員会! 共催 シンクタンク・ザ・リバーバンク 後援 長岡市
 問 電話09045204222 e-mail nagaokatsukurukai@gmail.com <http://nagaokatsukurukai.blog.fc2.com/>